

デーツ ——アラブ首長国連邦——

齋藤 純

●アラブ首長国連邦の土産物といえばデーツ

出張で立ち寄るアラブ首長国連邦（以下、UAE）の国際空港で頭を悩ますのは、気まぐれなセキュリティチェックではなく、空港内の混雑でもなく、ましてや魅惑的なバーカウンターでもない。「お土産をどうするか」という問題である。自然環境が厳しく人口が希少なUAEでは、地元で生産される農産物や工芸品は極めて限られる。限られた選択肢のなかで空港の土産物売り場で目立つのがデーツ関連商品である。

●そもそもデーツとは

デーツ（英：date）とはナツメヤシの果実であり、一般的にアラビア語でタマル（tamar）と呼ばれる。デーツは古来より、アラブ地域で貴重な食糧源および栄養食として親しまれてきた。クルアーン第16章「蜜蜂」章では、ナツメヤシは葡萄と並んで人間に栄養を与える神の恩寵として挙げられる。第19章「マルヤム」（聖母マリア）章でも、突然の陣痛に襲われたマリアがあまりの苦しさ、ナツメヤシの幹に寄りかかると、胎内のイエスが「このナツメヤシの木を揺らして、新鮮な実を落としなさい」とデーツを薦めたとある。

クルアーンにおけるデーツについての記述は、アラブ地域において、主食となりうる農産物といえど何よりもデーツであったことを示している。こうした状況は、現代まで続いている。たとえば、国連食糧農業機関（FAO）の統計によると、UAEの2014年の農産物の総生産額は4.9億ドルであったが、このうちナツメヤシは1.3億ドルで総生産額の26%を占めている。ちなみに、UAE国内で大量に消費される鶏肉は5879万ドル（同比率12%）、ラクダ肉も5720万ドル（11%）に過ぎない。

●デーツを購入するまでの遠い道のり

さて、いざ「デーツを買おう」と覚悟を決めたところで、次に「どのデーツを買うか」という問題に突き当たる。当然ながらデーツにも多くの産地があり、品



UAE、アル・アイン・オアシスのナツメヤシ（2013年10月筆者撮影）

種も数百種類もあると言われる。国際的な産地は、エジプト、イラン、サウジアラビアなどであり、UAE国内でも国産、サウジアラビア産、イラン産など複数の産地のデーツを堪能することができる。

せっかくなので国産デーツにしようと決意を固めたとしても、さらに「どの品種にするか、熟成具合はどうするか、品質のグレードはどれにするか」とさらに難解な問題がある。たとえば、「デーツの王様」と呼ばれる黒く輝くアジュワ（Ajwa）、大きめのデーツで干し柿のようなねっとりとした食感が楽しめるヒドリ（Khidri）などなど。このあたりから味音痴を自認する私には、判別など不可能になってくる。

●今後の課題

そうこうしているうちに、飛行機の搭乗時間を告げるアナウンスが空港内に鳴り響く。今回もまたタイムアウトだった。デーツの種類の多さに戸惑いつつも、アラブ人のデーツに対する想いの強さに納得もする。日本人にとっての米と同様、デーツは彼らにとって主食であり国民食なのである。いつの日にか、最高のデーツに出会いたい。

（さいとう じゅん／アジア経済研究所 中東研究グループ）